

「意見を聴く会」での意見表明内容（要約）

開催日時：平成 17 年 11 月 8 日（火）午前 10 時から正午まで

場所：都庁第一本庁舎 42 階 特別会議室 B

来場者数：12 名

意見表明：5 名

	ご意見	意見を踏まえた考え方の整理
1	<p>安全と安心が同義語になるよう、リスクコミュニケーションで信頼を得ていくことが必要</p> <p>関係者と顔の見える関係づくりを目指す必要。企業は、そのことに努力している。また、理解を得るためにはイメージと結びつくような言葉で説明することが重要。</p> <p>お互いの信頼の上に合意点を見つけだすという目的をもって、相互に聴く耳を持った関係者でリスクコミュニケーションは行うものとする</p>	<p>リスクコミュニケーションの必要性についてすでに言及</p> <p>信頼の上に合意点を見出す目的をもって「関係者の活発な意見交換」の考え方についてすでに言及</p>
2	<p>食育については、子どもが心も体も健やかに生きるための食べ方を身につけることが必要。</p> <p>給食を通じて、子どもに食の安全に関する意識を持たせること。そのために、季節感や食材の特徴などの情報を与えることが必要。</p> <p>行政は、給食実施者として安全で元気な食材を提供することが食育の出発点であり、このための補助金や助成金の充実が必要。</p> <p>事業者へは、安全で元気な食材の供給に向けた意識改革を行ってほしい。</p>	<p>資料 1 の 35 に同じ</p>

3	<p>大田区の食品リサイクル施設の建設について、決定が都市計画の枠組みの中で行われており、食品の安全の観点から議論がされていないことは問題である。</p> <p>政策決定の前段階で、消費者の声を受け止め、事業者としても見直しが働く力としてリスクコミュニケーションが必要だと思う。</p> <p>(食品リサイクルのような)新しい技術開発についても、消費者に分かりやすい形で情報提供して欲しい。</p>	<p>施策への関係者の意見反映、情報提供についての考え方についてはすでに言及</p>
4	<p>現在行われているリスクコミュニケーションでは、様々な立場の人が意見を言いつ放しであり、議論がかみ合わないという不満がある。このため、双方向の意見交換を行うフォーラムや継続的な議論を同じメンバーで繰り返すことが必要である。</p> <p>事業者の信頼性向上には、故意に違反等を行った者へ行政が厳罰に処することを明確にしてもらいたい。</p> <p>中間のまとめの中で、ゼロリスクを求めることを「理想論」としていることは、都の姿勢が受け狙いであり、正しいリスクコミュニケーションにはならないと感じる。</p>	<p>継続的な議論の実施については、すでに言及</p> <p>行政処分公表については、すでに実施</p> <p>理想論の表現については、誤解を生じないように内容を修正</p>
5	<p>「中間のまとめ」の公表から「意見を聴く会」の開催まで時間的な余裕がないので、今後、時間的な余裕を考慮して欲しい。</p> <p>消費者は専門家ではないので、科学的知見などの情報をきちんと提供されていないと、議論がかみ合わなかったり、不満が残ることになる。</p> <p>都のリスクコミュニケーションの取組に具体性が需要である。BSEや遺伝子組換え食品などの絞った意見交換会を行ってほしい。</p> <p>リスクコミュニケーションは、いつでも意見を述べることができ、いつでも意見をきけるものと期待を持っている。関係者がいつでも意見交換を行う場があるということは画期的なことだと思う。</p>	<p>時間的な余裕については、今後配慮</p> <p>分かりやすい情報提供の考え方については、すでに言及</p> <p>関係者の意見・要望を把握したうえで、意見交換を行う旨をすでに言及</p>